

<第21回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議 自由討論（平成24年10月22日）>

[司会者開始案内]

司会者 **カンソンボク 慶尚南道国際通商課長：**

間もなく自由討論を始めます。8県市道の皆様、関係者の皆様は、席におつきいただくようお願い申し上げます。

自由討論を始めさせていただきます。知事の皆様はお手元の同時通訳のレシーバーをご利用ください。それでは自由討論の時間にさせていただきます。議長のイムチェホ慶尚南道知事権限代行が、自由討論の司会を務めさせていただきますと思います。

[自由討論開始]

イム・チェホ **慶尚南道知事権限代行：**

知事の皆様、これから自由討論を始めさせていただきます。自由討論は、今回の会議のテーマの「高齢化社会と少子化対策」につきまして、発表された内容を中心に自由に意見交換を行いたいと思います。知事の皆様、貴重なご意見を、率直にお話くださるようお願いいたします。それでは、佐賀県知事をお願いいたします。

古川 康（佐賀県知事）：

ありがとうございます。高齢化対策そして少子化対策と、いずれも共通の問題のもとに、かなり似たような政策を実行していると感じました。大変勉強になりました。ありがとうございます。

お尋ねしたい2点ございます。1点目は、まず、慶尚南道の知事権限代行に対してのものなんですが、訪問する産婦人科という話があったのは、どこでしたかね。資料の16ページです。訪問する産婦人科の運営という項目がございますが、具体的にどういう事業かを教えてください、というのが1点です。

それともう1点は、これは、どの知事さん、市長さんにと決めている訳ではないのですが、6月の新聞記事で、慶尚南道では外国語で運転免許の教室をしたり、試験をするという記事を見ました。それに代表されるように、韓国では今、多文化共生というか、多くの外国人の方と暮らしていくという社会づくりをされておられると思います。その運転免許の教室も、日本語や中国語だけでなくベトナム語、インドネシア語、タイ語という言語が実行されていたと思います。即ち、少子化の一つの対策かも知れませんが、外国人の方と一緒に家庭を持つ韓国人の人が増えてきているのではないかと思うのですが、このことにつきましては自治体として何か推進策を講じておられるのか、あるいはそうでは

ないのか、この政策についてのお考えにつきましてお聞かせいただければ大変ありがたいと思います。これは、どの知事さん、市長さんでも結構でございます。以上であります。ありがとうございます。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

古川 康知事より、訪問する産婦人科の運営に関するご質問がございました。慶尚南道には18の市郡があり、そのうちの6つの郡には産婦人科がありません。そのために産婦人科のない所で、その地域の妊婦にサービスを提供するために、人口保健福祉協会といった機関に委託をしてこの事業を実施しています。人口保健福祉協会では、産前の診察チームとして、5人で1つのチームを構成しております。産婦人科医師1人、看護師1人、病理師1人、行政士等で構成されており、車で郡を回りながら、産婦人科の診療が必要な妊婦に対して診療サービスを提供しています。現、サービスを受けた人が1,270人に達しております。この事業は2008年度に慶尚南道が初めて実施した政策です。それが中央政策課題に採択され、またその後、ラオス政府でもベンチマーキングをした政策であります。もう少し追加説明が必要なところがございましたら、おっしゃっていただければお答えさせていただきます。よろしいでしょうか。

古川 康 佐賀県知事：

よくわかりました。ありがとうございます。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

そして、さきほどお話がありました多文化家族に関する運転免許試験につきましては、今のところ私はその内容について、詳しく把握しておりませんので、資料を揃えてから知事にお渡ししたいと思います。

これと似たようなサービスとして、行政において何か書類を発行する時に、多文化家庭で非常に多くの困難があります。そのため、多文化家庭を多くもっている中国、日本、ベトナム、そして英語等、5、6個の外国語については、申請申込書の様式が多言語対応になっており、中央政策からそれを始めて、そうしたサービスを提供しています。そして、先ほど知事がおっしゃいました多文化家族に対する問題は、勿論少子化策の1つとしても推進することができると思いますし、また多文化家庭が急速に増えてきている中、国民の総合共生といった面でも活発に推進されている事業です。この具体的な内容につきましては、申し訳ございませんが、今現在、詳細内容については熟知しておりませんので、詳しくお答えできないことをご了承いただきたいと思います。もしかしたら、ほかの知事で、この質問に対してお答えできる方がいらっしゃるかもしれません。お答えできる方はいらっしゃいませんか？

ホ・ナムシク 釜山広域市長：

今、韓国は多文化に関する施策がとつても重要になっており、特に、結婚して移民をされる方も急増しております。また、外国人労働者も非常に急増しております。韓国の場合、各市道にこの多文化家庭への支援、また、多文化家庭の外国人が韓国で暮らすことに不便を感じさせないように、自治体別に独自の政策を推進しています。釜山市でも、外国人労働者が増えていることで、産業団地や工業

団地等に外国人労働者支援センターを作っており、各言葉を話せる人材を配置し、不自由なく相談ができるようにしたり、支援をするような、そうした外国人労働者支援センターを設けて運営しています。先ほどの、外国語で運転免許試験を受けるという事については、私はまだ確認しておりませんので、そういう事例があるかを確認したいと思います。

パク・ジュンヨン 全羅南道知事：

日本も多文化家族が増えているのでしょうか。

古川 康 佐賀県知事：

日本は一時期には、今から20年前には少し増えていましたけれど、最近は、韓国ほど顕著に増えているという印象を持っておりません。他の知事さんたち、いかがでしょうか。

小川 洋 福岡県知事：

もちろん、最近、若い方の海外に対する興味や関心度は少し低くなっているのではないかと、逆に危機感を感じていますが、そんな感じですね。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

韓国で多文化家庭のための施策の中で多く実施されているのが、その方々が韓国での生活に適應できるようにするよう、韓国語教育のゼミを開いて運営をしたり、また、その方が職業が持てるようになる職業教育を行ったり等、自治体毎に多くの施策が推進されております。そして場合によってはそのような方々を役人として採用して、その地域にいる多文化家族が行政サービスを容易に受けることができるようにするサービス等の支援策を行っています。

パク・ジュンヨン 全羅南道知事：

先ほど、福岡県の例がありましたが、日本の各県が、いわゆる出会いのサービス、独身の男女の出会いの場を設け、結婚できるような支援をするという制度を行っていらっしゃるからお聞きしましたが、その効果については、数百人くらいが出てきても、とても良い効果が上げられるような事業だとは思いますが、しかし、先ほど私が少し申し上げましたとおり、わが道でも2006年に初めてそのような事業を実施するよう指示を出しました。なぜならば、結婚ができない晩婚の女性や男性が多いのは、チャンスがないからではないかと思ひまして、事業をすすめましたが、道がそれを主導していくのは大変だったので、セマウル運動という機関にこの事業を委託して実施をしてみました。しかし思った以上には、あまりカップルが増えず、また、結婚をした後も、何か少しでもトラブルや問題等があると、その問題に対する責任をとらなければならない、といった問題もありまして、これ以上は進めないほうが良いということで、一旦中断をしているところです。しかし、これから再開することも検討しており、日本でそのような政策を進める上での成果や、問題点について、お聞きしたいと思います。

小川 洋（福岡県知事）：

色々なケースを少し申し上げます。福岡県は、この出会いのチャンスを広げるために、企業とか団体を登録することにしてございます。一定のしっかりした事業を行う企業団体に限って登録をして、そういった企業団体が事業を行うようになっています。また、参加する男女、本来の目的ではない意図を持って参加してくる人たちを排除するような形で事業をやるということを求めているわけですね。それで、実際に登録をされたイベントがあつて、そこでお互いに引かれ合ったりするわけですけども、そのの所は自己責任になるわけですね。それで、最終的にご本人たちの意思が合致して結婚する場合もあるし、それがまずまずな場合もあると。ですから、まず主体をしっかりした団体にする、それから、その事業の中で、変な目的で参加するような参加者を排除する、そして後は、イベントの中で自己責任において、自らの伴侶として好ましい人を探すというのが、われわれ福岡県のやり方です。その結果、カップルもかなり誕生しているし、苦情や社会的な問題が起こっているということは、まだ承知をしております。

パク・ジュンヨン 全羅南道知事：

それでは、その費用は県で支出されるのでしょうか？

小川 洋 福岡県知事：

費用は個人の方が負担をすることになります。参加する個人が負担をすることになっています。我々は、インフラということでホームページとか、そういった場を提供する、情報サイトとか、そういったものを提供することになります。

古川 康 佐賀県知事：

佐賀県内でも同じように、結婚活動を、今、日本語としては結婚活動の略で‘婚活’という言い方もしますが、その支援をしている自治体がいくつかあります。その特徴の1つは、この結婚活動を担当する課の責任者、課長は、市の職員というよりは、外部で仕事をしてきた民間の人たちをお願いをしているケースがほとんどです。そういう人達が、民間企業で努めているのセンスで色々な事業を企画しています。そして大事なことの1つとして、その方たちがおっしゃるのは、相談しやすい環境をつくり出すということです。一般的には電話やメールで相談されることが多いですが、大体どこの市でも、相談に来る件数は女性からのほうが圧倒的に多くて、その女性の数に見合った男の人を確保するほうが難しいという話をされてきました。

そして登録をする際には、必ず今結婚していないという証明書を市役所に発行してもらって、登録をするようにしています。それをしたのであれば、二重結婚とかそういう問題は避けられるということです。実際に一緒に車に乗って、例えばハウステンボスに遊びに行ったりとかするわけですけど、そして、「じゃあ、お付き合いをしてみようか」という時にも結構相談があると聞きます。例えば、

今度初デートをするのだけでも、待ち合わせの何分前に着いていただらいでしょうかとか、こんなことを聞かれたりすると言うのです。今パクジュニョン知事さんがおっしゃったように、今まで付き合い合ったことがないという人が非常に多いということを、実際にこの仕事をされている方々は感じておられるようでして、その意味では確かに問題もあるのかも知れませんが、出会いの場を作っていくという事そのものには意味があるのではないかと思います。

また、佐賀県だけでなく、多くの町で行われていることですが、そういう「出会いの場」という風に名前がつけられてるわけではありませんけども、2千円か3千円分のチケットを買って、色々なお店へ行って、色々な人と会うという、町を舞台にしたミーティングというか、合同コンパというものも行われていまして、そしてあるお店に行って色々な人と話をし、また次のお店へ行って他の人と話をし、そういったことを若い人達の団体がやっている都市もいくつもあります。行政がやっていた場合もありますし、そういう民間の団体がやったほうが良いケースもあると思いますけれど、いずれにしても、そうやって出会いの場をつくっていかないと、なかなか最近忙しいのと、ネットが発達してしまって、直接会うことが減っているという事は否定できないかなと思います。以上です。ありがとうございました。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

ありがとうございました。済州道知事お願いいたします。

ウ・グンミン 済州特別自治道知事：

同じような事例が当地域にも、ほかの皆さんの地域にもあるかと思ひまして、お伺いしたいのですが、日本にも高齢者の集まる老人会の集会場等がありますよね。韓国も各村や、町毎に老人の集会場があります。私は前にも道知事を務め、今もそうなのですが、以前は、韓国では敬老堂と言うのですが、その老人の集会場に行きますと、敬老堂の施設があまりにも狭く、建物を新築してほしい、増築してほしいという要請がありました。今回、道知事に再び就任してから見てみますと、高齢化社会になるにつれて、その老人会の集会場や敬老堂にたくさんの方がいます。そうなりますと、建物を新築したり増築しないといけないのですが、労働力もある人達が、ご存じのように韓国は65歳になると高齢者ということで、その高齢者の集会場に行ったりするのですが、もちろんない所は仕方ないので、新築しないといけないのですが、あるところではできるだけ増やさないようにしようと思ひています。しかし、高齢者の皆さんが、なにか事業をしたいという場合は支援してさしあげる、という風に、高齢者の皆さまにもそう申し上げました。

そうしたら、済州道の場合は、従来農業をしたり、畜産業をしたり、大勢の方々が、そういう仕事に従事していらっしたのですが、そのお爺さん達は、自分の地鶏を飼ってみたい、鶏を飼って育ててそれを売って、そして、それが2期3期程とサイクルが回ったら、支援を受けなくて自分の力でやる事が出来ると言っていました。そこで、1億2千万ウォン位の支援をしてさしあげました。そして、今年の9月末には、お盆以前に500羽くらい売ったと言われていました。ですから、その集会場を増築しなくても、こうして皆さんが、やり甲斐も感じて、健康を維持して、そして社会的な企業というものも作っているのですが、日本にもそういう事例がありましたら、私達もベンチマーキングをしてみたいと思ひてお伺いしているわけでございます。

小川 洋 福岡県知事:

福岡県の「70歳現役社会づくり」についてご紹介をした中で、応援センターをしている事業の1つに企業、事業を興す事についても色々なアドバイスをする、例えばお金が必要といえ、お金を調達できるような所を紹介したりとか、そういった企業の形でお仕事をされ続ける方。それから、再就業とか、働く場合もですね、組織に入って働く、あるいは自分で事業をする時に必要な色々なノウハウを教えてあげて、必要な支援を色々なところに声をかけて引っ張ってくるとか、そういった働き方についても色々バラエティーを持たせるような形で支援をしているということが参考になるかもしれません。できるだけ色々な一般制度を活用しながら、高齢者の方の相談事にきめ細かく答えていくというのが大事だと思います。

小川 洋 福岡県知事:

釜山広域市長にお伺いします。資料の25ページで、保育サービス強化として、24時間保育園とか、夜間の保育園の強化という部分についてご説明を頂きました。女性の社会進出、あるいは福岡県もそうですが、人口が1970年以降ずっと増えていますが、増えているのは福岡市周辺です。大都市周辺で人口が増えているのです。そして人口が増えるという事は、周辺から社会的な移動があると社会的な増加、それから社会的な増加があれば若い方が増えますので、お子さんも増える、両面からお子さんが増えるということになります。従いまして、保育園のニーズが高くなります。それに応じて保育園を増設、新設していますが、その一方で、保育士と言いますか現場で働く専門の方がなかなか確保できないという問題があります。それで、資格を取っても雇用条件とかが合わなくて別の仕事をする方がおられたり、保育所、保育園で働いていても、結婚されてリタイアされるとか、そしてお子さんが一段と大きくなってから、もう一度戻ってくる時になかなか戻ってこない、そういう専門家の人財をどう確保するかというのが私たちの悩みの一つです。ここで、24時間とか夜間とか勤務条件もなかなか厳しいのだろうと思いますが、必要な専門家をどう確保されているのか、インセンティブとかあるかお話ししてください。

ホ・ナムシク 釜山広域市長:

出産奨励のためには、保育の心配をできるだけ払拭することが重要です。どの政府、どの自治体でも、子育てや保育の支援を色々行っていると伺っていますが、釜山の場合には保育施設が、量の上で足りていないということはないのです。たった今、福岡県知事もおっしゃったように、サービスの質というか、親御さんたちにとって、安心して子供を任せられるような保育施設をどう確保するかということはとても重要な課題であります。

特に、釜山の場合も、保育施設を民間保育施設に依存する割合が高く、色々心配されているところ。そこで保育施設に勤める先生と申しますか、保育士の待遇も非常に悪い状況と言われてます。ここで働く人材は、地方大学の幼児教育科卒とか、リソース、資源は多いのですが、人件費が低いので離職する場合も多いですし、民間保育施設といっても、市で一定額の手当を支援してはおりません。しかし、まだまだ不十分な状態ですので、敬遠されることも多いと思います。

先ほどの昼の保育も重要ですが、夜間に親御さん達が働きに出られる方も多いので、従来の保育施設で夜間も保育できるようにするのを推薦しています。最も大きな問題は、あまりに民間施設に頼っているために、財政的な困難といましようか、そこに勤める保育士の人件費が低いのが、とても心

配です。財政的な支援も、また市でやらないといけないのですが、市の財政にも限界がありまして、色々心配をしています。保育施設に勤める保育士の処遇を改善するために、段階的に色々取り組んでいます。

小川 洋 福岡県知事：

ありがとうございます。ほとんど同じような悩みを持っていらっしゃるのことがわかりました。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

他の知事の方々から何かご質問やコメントがございましたらお話ください。

ホ・ナムシク 釜山広域市長：

本日、わが市でもそうですし、全羅南道、済州道等の8県市道と一緒に交流をしたいといったことで、様々な事業の提案があったと思います。直ちに進めようという趣旨で申し上げたのではなく、8県市道の関係者同士で、一緒に悩みながら研究する契機にしたかどうかという考えで、皆様に申し上げた次第でございます。中高年退職者の人的交流の推進は、企業でニーズが高いように思われます。例えば、釜山の中小企業におきましても、技術や問題を解消するために、日本の企業で務めておられ、今はリタイアした方のお力を求める中小企業もある訳です。そこで、こうした研究を進めていくことができれば、民間企業にもニーズがありますし、また日本でも、優秀な技術力を持つリタイアした技術者、関係者の方々がいらっしゃると思いますので、共同交流事業としてご提案をさせていただきました。8県市道の関係者で十分に検討をして、一緒に悩みながら研究する契機にしたいという考えで皆様に申し上げた次第でございます。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

本日は県市道の皆様にご出席いただきましたが、今、釜山市からも事業のご提案がありました。この問題につきまして、釜山市もお話されましたとおり、実務担当者に検討をしてもらおうということで、その内容をまとめまして、今年採択可能なものは今年採択して、それからまた、他の物は検討を進めていくということで、実務担当者に一任してはいかかかと思えます。皆様のご意見をお聞きしたいと思えます。はい、パクジュンヨン知事。

パク・ジュンヨン 全羅南道知事：

釜山市長がおっしゃった内容は、とっても素晴らしいご提案でした。出産問題と高齢人口問題は韓国と日本だけではなく、全世界の課題でもあります。これを解決しなければ国を健康にできないし、私達も色々悩んだ末、まずは、お互いに研究結果を交流することから始めてはどうかと思えました。共同研究を進めて何が良いのか、そして、その中で、最も良い方法と証明されたり、ケーススタディー等の結果が出れば、残り7県市道がこれを試みたりする、こんな風にお互いにアイディアバンクと

というような共同研究をしながら、専門家達の見聞も聞きながらすすめてらどうかということで意見を申しあげました。私達は8県市道ではございますが、日本の政策や韓国の政策を、自治体として自ら良い事を発展させていけば、自ら政策を主導していくことができます。こうした共同研究を活性化しながら、交流を実施するのかどうかという考えで申しあげました。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

それでは、パクジュンヨン知事は、提案された共同研究や日韓フォーラム交流事業は、今回に交流事業として採択した方が良いというご意見でしょうか？

パク・ジュンヨン 全羅南道知事：

はい、簡単にできるような事ですので、そう思います。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

ホナムシク釜山市長は、提案された課題につきまして、実務担当者が検討した上で、今年採択するかどうかを決めるほうが良いといったご意見でした。パクジュンヨン知事は、提案された共同研究と交流事業を今回採択した方が良いといったご意見だと思ひます。それでは、ほかの知事の皆様は、これについてどうお考えか、ご意見をお願いします。

ホ・ナムシク 釜山広域市長：

パクジュンヨン知事が今お話された趣旨は、全羅南道で提案した事について、まず研究してみよう、研究を始めようといった趣旨だったと思ひます。ここで提案されたすべての事業を、まず始めようといった事ではなかったと思ひます。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

はい、そうだと思います。日本側の知事の皆様はいかがでしょうか。ご意見をお聞かせください。

小川 洋 福岡県知事：

はい、少し明確にしていこうと思ひますが、まず、実務者で検討するという事を踏まえて、この知事会議全体でどうするかということを考えていく、そういう事だと受け取ってよろしいでしょうか。それとも、今ここで決めようという事なのか、わからなかったのですが。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

その部分につきましては、私が申し上げた趣旨を改めてご説明いたします。ホナムシク釜山広域市長は県市道の共同事業をご提案されました。それにつきましては、今回の会議で必ず何かを採択する必要はないということで、急を要する問題もありますし、そうでない問題もありますので、これについては実務レベルで検討して、急を要する問題から先に採択して、共同事業として研究を始めるといった趣旨の内容でした。

それで、私がおの意見に対して、各県知事の皆様のご意見をお聞きしたいといった事でございます。そして、それに続きまして、パクジュンヨン全羅南道知事は、全羅南道が提案した2つの課題が、今共通の懸案事項であるために、これについては、知事の皆様が、この場で事業として採択したほうが良いといったご意見をおっしゃったわけです。これについて、皆様のご意見をお願いいたします。福岡県知事からまずお伺いし、その次に、佐賀県知事をお願いいたします。

小川 洋 福岡県知事：

よくわかりました。即ち、38ページの全羅南道の知事がご提案された部分について、直ちに研究を始めようかというご意見だと受けとめました、そういう意味では私は賛成です。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

では、佐賀県知事をお願いいたします。

古川 康 佐賀県知事：

ありがとうございます。私は釜山市長さんからご提案があったのは、高齢化対策につきまして具体的な事業のご提案があり、こうしたことにつきまして実務レベルで検討を進めていったら良いのではないかというお話だったと思います。その意見に賛成です。さらに、思ったのは、同じ高齢化対策ということで観点は全く違いますが、全羅南道知事さんから老人の事についてのお話もありましたので、高齢化対策のことにつきましては、そのようにして実務レベルで検討をしてもらったら良いのではないかと。その中で、これは来年も出来るよねということであれば、このご提案のこともやっていたら良いしと思いました。それと少子高齢化克服のためのフォーラムにつきましては、これは確かにパクジュンヨン知事のおっしゃるように、やろうと思えばすぐできるかなと。例えば、各自治体で来年こういうフォーラムを予定していれば、この仲間にご案内をし、来られるということであれば、色々な対応をその中でやっていくということについては、みんなでやっという今ここで決める事は、そんなに難しいことではないのではないのかと、そのような気がしております。以上であります。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

ありがとうございます。 済州道知事、お願いいたします。

ウ・グンミン 濟州特別自治道知事：

日本側もそうですし、せっかく韓国側の知事の皆様のご提案をしてくださった事ですので、今日この場でご提案をされた内容を実務者が一度検討して、優先順位をつけて、今年できるものは今年行って、来年できるものは来年行って、というようにした方がよろしいかと思えます。パクジュンヨン知事には、少しお譲りいただいて。私が今申し上げたいのは、少し流れがおかしいかと思ひまして、パク知事も、最初はそのような内容ではなかったのだと思ひますけれど、そういう方向に進んでいるような気がいたします。まず、佐賀県知事がおっしゃたように、今日8つの県市道でそれぞれご提案がございました。これを実務者が共同でまず検討をしまして、優先順位をつけて、また時期も決めてからという風に進めた方が良いのではないのでしょうか。

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

ウグンミン知事、ありがとうございます。私が司会を進める上で少し方向がバラバラになった気がいたしまして、失礼いたしました。パクジュンヨン知事も同意されたと思ひますが、各県市道で本日もご提案された共同研究課題につきましては、8県市道の皆様のご了承を頂けるのでしたら、実務者レベルで検討いたしまして、何を今年採択し、何を来年以降行うのかという事を決めたいと思うのですが、よろしいでしょうか。長崎県知事、お願い致します。

中村 法道 長崎県知事：

賛成でございます。やはり、まだ現時点で環境は双方似ているとは思ひますけれども、それぞれの政策で具体的に取り組んで頂いている事項というのは、やはり実務レベルで情報交換を十分にした上で、どういった分野から具体的な取り組みが可能であるのか、優先度がどうなのか、その部分をぜひ実務レベルで検討の上、計画的に進めたらどうかと思っております。基本的な考え方は賛成です。

[自由討論結論]

イム・チェホ 慶尚南道知事権限代行：

中村知事ありがとうございます。ほとんどの方々が賛成と理解しておりますが、中村知事のご意見と、もし違うご意見がございましたらお話しください。

それでは皆様同意されたということで、各県市道で提案された共同研究課題につきましては、実務レベルで検討を進めることにしたいと思います。また、他のご意見やご質問がございましたらお話しください。

発表時間が予定時刻より少し遅れましたので、ディスカッションの時間も少し遅れたようです。他にお話されたい事がございませでしたら、以上をもちましてディスカッションの時間を終了したいと思います。ほかの知事の皆様から、ご意見がございませでしょうか。それでは、終了してもよろしいでしょうか。はい、それでは、本日は、以上をもちましてディスカッションを終了いたします。知事の皆様にご心から感謝いたします。活発な意見交換をしてくださった知事の皆様に改めて御礼申し

上げます。本日開催されました日韓県市道交流知事会議で議論された内容に基づき、自治体間の友好交流が活性化され、相互の友情を深める契機になることを期待いたします。先ほど、県市道の皆様のご同意されたように、本日提案された内容につきましては、実務レベルで検討をして、共同宣言文に盛り込むことができるように協議を進めたいと思います。本日の会議に積極的にご協力くださった各知事の皆様と関係者の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。以上をもちまして、第21回日韓海峽沿岸県市道交流知事会議を終了いたします。ありがとうございました。

[記念写真撮影]

司会者 カンソンボク 慶尚南道国際通商課長：

ご案内申し上げます。写真撮影がございます。まず知事の皆様方の撮影をいたしまして、続いて、知事と局長とご一緒に撮影をいたします。